

河守鉦山跡地緑化プロジェクト「日向水木（ヒュウガミヅキ）試験植樹」

日時 平成23年11月8日（火） 午後2時～4時

場所 福知山市佛性寺地内 河守鉦山跡地

内容 河守鉦山跡地での日向水木植樹実験

参加者 福知山千年の森づくり協議会、福知山市（事務局） 13名

要旨

本市では、平成19年8月に三岳山から大江山一帯が「丹後天橋立大江山国定公園」に指定されたことを受け、平成20年度に策定した、「福知山千年の森づくり基本計画」に基づいて、豊かな自然を千年先の未来に引きついでいきたいと考えています。

この国定公園区域内にある大江山グリーンロッジ付近には、昭和44年3月まで操業していた「河守鉦山跡地」があり、その跡地は、今でも鉦石ガラクタ等に覆われて裸地化しています。

このため、森づくりの一環として、この河守鉦山跡地に蛇紋岩でも生育する日向水木を植樹し、鉦山跡地の緑化を推進して計画をしています。今回、その前段階として、日向水木の苗が育つかどうか実証実験を行いました。

実証実験は福知山千年の森づくり協議会会長の森本幸裕（京都大学大学院地球環境学堂教授）の指導を受けて協議会のメンバーで取り組みました。



作業説明



作業状況



森本会長による植樹方法アドバイス



土入れ



実験エリア全体

○実験エリアをA・B・Cに分けて24本を植樹

- ①Aブロック（全く植生のない場所）
- ②Bブロック（松、ススキ等が植生している周囲）
- ③Cブロック（法面）

○4種類の植え方で試験

- ①そのまま植樹（直植え）×10本
- ②園芸用土に置き換えて植樹×4本
- ③竹ポットに入れて植樹（竹ポット直植え）×5本
- ④竹ポットの周りを園芸用土に置き換えて植樹×5本



Aブロック



Bブロック



Cブロック